



前進

育てたい力：共感力・探究力・協働力

◎台湾の小学生との交流

台湾高雄市立興達小学校、廣興小学校、観亭小学校の3校から、先生方10人、児童26人が5月29日（月）に来校し子供たちと交流しました。以前から大野小学校がオンラインで高雄市の小学校と交流を続けてきたことから今回日本を訪問する運びとなり、交流するもう一つの学校として佐敷小との交流が実現したという経緯になります。

前日の夕方に芦北に到着し、あしきた青少年の家に宿泊。午前中は大野小学校、午後から佐敷小学校を訪問しました。

1年生から4年生までは、バスから降りてくる皆をお出迎えしました。本校の子供たちの笑顔と大きな声援に、台湾の子供たちは大変喜んだ様子でした。

その後、5・6年生が体育館で交流会に参加しました。まず、観亭小学校の児童8人が台湾の伝統楽器を使って演奏を行いました。「桃太郎」「涙そうそう」など、子供たちが一緒に口ずさめる曲、聞いたことがある曲を含めて演奏し、日本と異なる楽器による演奏をしっかりと聴いていました。

本校からは6年生が佐敷小学校の様子や日本の文化について発表しました。短い練習時間の中で精一杯の準備をしてくれた6年生の歓迎の気持ちは、しっかり伝わったと思います。

その後、10人ほどのグループをつくり名刺交換、英語すごろくをしました。英語での会話は難しかったようですが、すごろくでは一緒に笑ったりハイタッチをしたり



拍手をしたりと楽しそうに活動していました。

言葉や文化は違っても、そばにいただけで子供たちはすぐに仲良くなるものだなあと実感しました。今の子供たちが大人になる頃、現在よりもさらにグローバル化する社会になると思います。今回の交流が、子供たちに世界へと目を向けさせる一つの機会になれば良いなあと考えています。

◎田植え体験

6月5日（月）に芦北高校の圃場で、5年生が田植えを経験させてもらいました。芦北高校の生徒がそばに付き添い、優しく植え方を教えてくれました。

「初めて田植えをしました。」と話す子供もいて、思い出に残る時間となったようです。また、「高校生が優しく教えてくれたので安心できました。」「稲が育つのが楽しみです。」といった感想もみられました。高校生と良い交流になったことと思います。



◎中学生とのあいさつ運動

今年度も佐敷中学校生徒会の皆さんと合同であいさつ運動を実施します。今年度最初の合同あいさつ運動を6月5日（月）に実施しました。

さすがは中学生、元気で勢いのあるあいさつに、本校の子供たちは押され気味でした。凜とした中学生の姿をみて、憧れの気持ちを持つとともに、お手本にして気持ちの良いあいさつを目指してくれると良いなあと思いました。



【校長室から】全校集会で、WBC日本代表として活躍した大谷選手の話をしました。高校時代に「8球団からドラフト1位指名」の目標を立てた大谷選手は、そのための下位目標の一つに「運」を設定しました。「運」を良くするためにはどうしたらよいのでしょうか。大谷選手は「周りの人が笑顔になることをすれば、自分の運も良くなる」と考えました。「ゴミ拾い」「部屋そうじ」「道具を大切に使う」などの具体的な行動の一つとして、「あいさつ」を設定しました。あいさつは周りの人を笑顔にすることを大谷選手は実感し、気持ちの良いあいさつを実践していたのです。本校でもあいさつをとおして周囲の人を笑顔にできる子供たちを育てていきたいと考えています。